

【メディア情報】 7月31日(月)弘前市と弘前大学が、
先端医療研究開発プロフェッショナル人材育成事業に
ついての記者会見をおこないました

先端医療の人材育成

弘大に
弘前市 19年度まで毎年寄付

弘前市は31日、弘前大学に対し先端医療研究開発プロフェッショナル人材育成事業として1000万円を寄付すると発表した。同大は寄付金を活用し、国内外の著名研究者による特別講義と、学生・若手研究者の海外派遣研修を行い、人材育成を図る。

同市のライフイノベーション戦略事業の一環。地方創生推進交付金を活用し、現段階で

は2017～19年度に、毎年度1000万円の寄付を継続する予定。特別講義は年間4、5回程度を予定し、睡眠研究の第一人者である筑波大学の柳沢正史教授と、若くして再生医療分野で注目される横浜市立大学の武部貴則准教授の招へいがすでに決まっている。海外研修派遣は費用の一部を補助し、医学部生12人と大学院生3人を

短期派遣するほか、40期派遣する。歳以下の若手研究者4人をアメリカなどに長期派遣する。副市長は「弘大は人材



事業概要を説明する、山本副市長(左)と石橋教授

育成と地域のイノベーションを図る拠点。時間がかかると思うが、弘前市で最先端の医療を提供できるような体制が構築され、その成果が市民に還元されることを期待している」

とし、弘大学院医学研究科整形外科学講座の石橋恭之教授は「弘大医学部、附属病院の医療レベルの向上と、学生のモチベーションを高めて青森にとどめ地域活性化に役立てるのが狙い。優秀な学生に弘前に来てもらうPR材料にもなる」と語った。

(西尾瑛)

(平成 29 年 8 月 1 日陸奥新報社提供)